

# 切山のかやぶき屋根 要害の森

## 四国中央市 切山 真鍋家のかやぶき屋根と要害の森

真鍋家住宅は愛媛県四国中央市金生町山田井の切山地区にある寄棟造りの平屋である。茅葺屋根は 20 年に1回のペースで葺き替える必要があり、最近では 2019 年に葺き替えられた。その費用は国・県・市だけでなく、見学に来た人の寄付やユネスコ協会の協力でまかなわれた。真鍋家は約 300 年間切山地区に存在し、それを可能にしているのが、真鍋家を様々な樹木で囲い、防風林としての役割を果たす要害の森。そして切山住民らの協力である。本ポスターでは、修復された茅葺屋根、真鍋家に漂う囲炉裏の煙、そして背景に要害の森を捉えた。真鍋家は切山地区のシンボルとなっており、平家伝説などを含めた歴史を伝える役割を担っている。

えひめ瀬戸内LINKプロジェクト  
愛媛県立川之江高等学校 × 愛媛大学井口梓研究室 × 東予歴史文化協議会